

大正九年八月十日  
 高知之對馬山嶺及海嶺身熱身熱二嶺平野之間  
 同日山火五十八人死年七月十一日也助助野人直  
 豊引赤吉野嶺業合此上嶺家為成之是嶺和出日

河越記

以ははらふふらふあり之世其盛衰をみる神威を  
 失ひて權實是往の流去りてち祭祀禮奠も時を  
 志してよ久しかり佛法後五百歳の末法なり之諸  
 經ハ志るの極あり稱念禱紳の師門を志る者  
 致讚嘆の檀のまき也人王の百代たりて過ぎ去る  
 百の政も施捨民安世の先くともかく月つ雲客も  
 官位除目一時は後をひて遠く遠國よりはるかに  
 仁徳の御宇と志るは定喜代御代を志るは孫子も  
 時成るるあり雲のふかきはるかにありのありの物に

卷三百十五

九六











の旗ハ虚定不形満一と逆風よきも人馬の  
音ハ天地ノ動搖一と物をもくもくも神ハ  
清浄の流りやまうと朝定とて威をいかに陣  
破りまは張堂全くと軍の云將基創志と云  
骸をけり一と頭ををけり勝よりの軍云  
ハ駿馬ノ鞭をわき之東西に馳をい南に飛  
とま敗水の岸ハ天をけり鳥ハ鴉の翅より  
地をけり一と獸の獅子をくふと云云九右より  
之市屋よらつと物と云五夜中新月ハ塵埃よ  
新たま一と紅血よえんとも二千里の外ハ古人の

成之を死後代ハ少くも書云數勝得る者掃心  
亡者多と云と物と云河越の館やと云甲しき  
後ハ素子の搦まうと云北の海にけり一と船を  
ふ化けり一と貝女もかよる形と云  
解りまけりかきかみして田更よと云野人  
神をひくと云と云朝定も  
縁人ハ如くけりまうと云も云と云松山の城を  
と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
新波田と云と云と云と云と云と云と云と云と云と云  
岐館ハと云と云と云と云と云と云と云と云と云と云



此より残葉も朝定の初をさるは館に集り  
 とも星ふし松らるあらし一も勢可き文月の半八日  
 一もふよのしる軍勢も又つ館に押多矣麟下  
 不陸をさる鳥翼の旗をさひつと迎里を村に  
 か美天のふりま司如遠も人ともみやいふ人  
 同舟日城を新成田にほり来りて勢業を引率し  
 我懐の情をひるる漢高祖の我を以字之は陳  
 从よ柄を備やんる軍をせりも之も救括雷  
 城角の蝸牛の角をわくもく物ももさる書  
 云人而無遠慮則必有迎愛之云今又家之は勢業

等こつたちりるも後人愛ふるたをまの序にやん  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく

一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく

一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく  
 一もあうりまのいふ大將也新成田のあはく











此は飛來之と云はれしはくもさやの大和寺野山と  
 云妙如の名山あり君をたふさくはくもさや  
 うけよと云之民をたふさくはくもさやと云ふ  
 ことありし朝よみまは山遠しと云ふり客あり  
 けうはくもさやもさやの松寒しと風語人の言を  
 かゝるをたふさくはくもさやの終三町ありて  
 秘迹し昔仏空仙人と云ふしよりのとく名法と云  
 小のさや寺ありて定曆も秘移しと遠く慈覺  
 の建まはる時まはりし仏法と云ふはくもさや  
 と云ふ名をたふさくはくもさやの尊海僧と云ふと當

此は開基と云はれし法をたふさくはくもさやの星野山  
 無量寺と云ふ寺ありて二百余歳ありし山に流氷  
 あり清淨水ありて明果ありて法をたふさくはくも  
 さやのさやありしと云ふ野山と名法と云ふ彌陀と  
 云ふ先より寺無量寺と云ふと云ふはくもさやの  
 山ありて顯密を圍ありはくもさやの中院と顯密山と云  
 ふはくもさやの南院ありはくもさやの鹿の川ありて  
 之をたふさくはくもさやの寺ありて寺ありて  
 ありしと云ふ今もさやありて静に徘徊し  
 りと云ふ天台山の四段と云ふと云ふはくもさやの長徒と云







之表乃の塔の井のりし之流もふくむ後  
 うふひまかくゑの園の務ふまをさつもの雁の  
 先くすし多麻河さくく松山川のりあれさ  
 出流を音はくさ手はくりて讀の川はく人あり  
 はくふのさめく平旬のふ二のり千里のさゆり  
 まのりく雲の鏡さけきさるあを時しめ  
 ぶかりく家猶さりあさの眺をみまよいまあ  
 おらるふ人あむりり流氷さりあ花の田あ  
 こらるまふさく道はさかた繩もふはくさ松  
 ぶか籠ふふ対しとらるくまをさかむ毛山

尤よわりのくも也比企岩をさるるハ觀音菩薩  
 隨縁の地え二十三所の二あり旅りの山守神を  
 法き種をあらり之現為二世の道以終ふ弘法  
 深如海よりさよ慈琳の誓願也程のさくく川を  
 荒川を法をさむむの族父の山さあまりか  
 英郡をさくく平奈郡のあをさくく彼郡より  
 かたの法をさか英の川をさくく米六利根河をさ  
 ゆらさ是をんむり一の國をさ法をさくく川を  
 于時天文二丁園中秋ひさりある法あくあか  
 ぶかあよりりさるる灯をさけとまをさくく

卷三十五

二十五



深之當城名卷之地理を記し了りて  
此先く之を以て其の地を記す  
之は之を以て其の地を記す

本云

此河越記西照作云云

古河越記以古馬一本校合す

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

赤谷記

上掲赤普代之目錄

四天王

因谷加賀守

秋幸上総守

井上元清門

上原出羽守

長谷越後守

同 丹波守

同 備前守

同 隼人助

馬場次郎清

柳沢隼人助

野内儀兵衛

用土新守